

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——



特集

～自分らしく生きる、1つの選択肢～
「女性の起業」あれこれ

2019.3

44

男女共同参画社会をめざす

「女性の起業」あれこれ

前号では「子育てと仕事の両立」について考えました。今号では「女性の働き方」に焦点をあて、その1つ「起業」を取り上げます。専門家、そして実際に起業した方々に起業に至るまでの経緯、現在の状況を伺い、起業とは何か？自分らしく生きるとは何か？を考えてみました。人それぞれ違うように、生き方、働き方も多様であるはず。新しい働き方を見つけるきっかけになればと思います。

起業の専門家 たけうち ちずえ 竹内 千寿恵さんに聞きました



「起業」とは何ですか？

事業を起こすことです。ビジネスの仕組みを作り、継続させていくことを始めることが起業です。

A



資格の取得など手に職をつける必要がありますか？

資格は必ずというわけではありません。資格取得はきっかけにはなりますが、起業に必要なのは「原点となる使命感」です。使命感を達成するのに勉強が必要になり、そこで資格取得が必要とわかってきます。資格は絶対的に必要というわけではなく、取得すれば何らかのプラスにはなるというスタンスで良いと思います。

A



起業のメリットとデメリットをおしえてください。

メリットは、組織の中のルールに従う必要がなく自由が手に入ることです。デメリットは、会社がやってくれた保険などの手続きを全て自分でやらなければならない、決まった収入が無くなり不安定になることです。

A



小平市での起業の状況についておしえてください。

ここ数年、小平市周辺で起業が増えたと感じています。多摩地域はもともとベッドタウン。大企業勤務経験があり、結婚や出産で退職した主婦が多いエリアです。起業が盛んでない頃は、キャリアウーマンだった主婦の力は地域活動に活かされていました。今もその傾向は変わりませんが、もう一方で地域活動から起業する選択肢が増えてきているように思います。

A

起業を目指している人にメッセージ

起業は、軸がぶれないでトコトンできる、好きなこと得意なことをテーマに選びましょう。そして、起業の難しさは持続です。家族との暮らし、自分自身の健康、ワーク・ライフ・バランスをしっかりと考えて、どこに重きを置くか、どこに向かっていくのか常に自分なりの羅針盤を持つことが大切です。

竹内 千寿恵さんプロフィール

NPO法人MYstyle@代表理事。出版社での編集から専業主婦の生活を経て、再就職活動を始める。なかなか求める仕事に出会えず「なければ、作ればいい」の発想で2006年11月コミュニティビジネス活性化を目指し、自らNPO法人Mystyle@を設立。コミュニティビジネス起業支援（講座・交流会・相談業務）、創業塾、セミナーを開催する。広域関東コミュニティビジネス協議会幹事、多摩コミュニティビジネスネットワーク世話人等を務める。

たね
**起業の種を
育ててみよう!**

起業は1から始めなくてはなりません。起業を考えたその日から、準備が始まります。まずは種を見つけましょう、そして種を大切に育てて起業につなげましょう。

起業までのステップアップの方法と、小平市周辺で得られる起業支援をご紹介します。



小平市周辺で得られる起業支援

(※詳細は各ホームページをご覧ください。)

💡 資金調達の相談もできる

東京信用保証協会 立川支店

保証協会の有するファイナンス機能と経営支援機能を活かし、起業支援が受けられます。年に2回の創業スクールもおすすです。

所在地 立川市曙町2-37-7 コアシティ立川ビル5階

💡 多摩地域を元気にしたい! 地元で起業するなら

創業支援センター TAMA

地域で暮らし、自分らしい働き方を実現することを応援。多摩各地の創業支援機関とネットワークを結び、多摩地域で得られる創業支援の情報を知ることができます。

運営 多摩信用金庫

所在地 立川市曙町2-8-18 東京建物ファール立川ビル1階

💡 創業タイプに合わせた支援メニューが充実

BusiNest (ビジネス)

中小企業大学校の中にある創業支援施設。キッズルームや女性限定講座など、女性が創業準備活動をしやすい環境が整っています。

運営 中小企業基盤整備機構 中小企業大学校東京校

所在地 東和市校が丘2-137-5

中小企業大学校東京校東和寮3階

💡 創業に役立つ情報や融資の相談ができる

多摩創業支援センター

創業計画書の作り方や創業時に利用できる融資の相談を行っています。創業時や、創業後の経営に役立つセミナーを多数開催しています。

運営 日本政策金融公庫

所在地 立川市曙町2-8-3 新鈴春ビル3階

💡 チャレンジショップで基礎固め

小平商工会

相談については、商工会経営指導員等が随時対応しており、特定創業支援認定が受けられる創業セミナーも開催しています。また、創業予定者や創業間もない方にも「チャレンジショップ」事業で創業をバックアップしています。

所在地 小平市小川町2-1268

💡 女性の仕事へのチャレンジを応援するスペース

こだいらコワーキングスペース すだち

女性の「働く」を支える小さな拠点です。1day キッチン、1day サロンといった創業へのチャレンジの場も備えたスペースです。

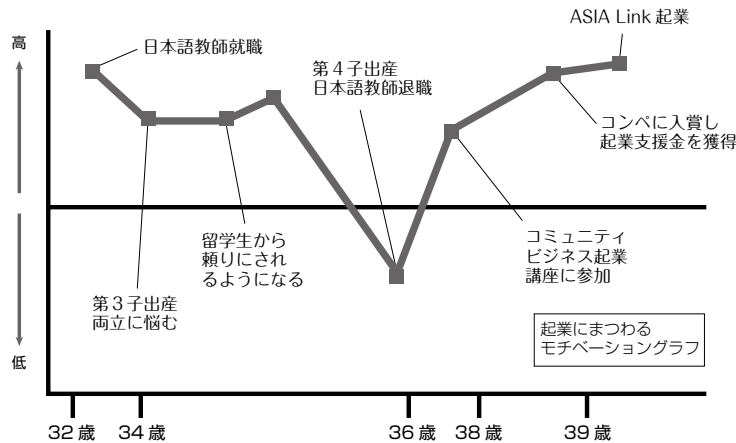
運営 一般社団法人すだち

所在地 小平市学園東町1-9-15

小平市で起業したロールモデルから学んでみよう!

ロールモデルの起業エピソード

〈起業支援金による起業〉



*平成22年に開講された小平市とNPO法人MyStyle@との協働事業

株式会社 ASIA Link

おのともえ
小野 朋江
さん



起業までの3大トピック

1. 留学生の就職の役に立ちたい
2. 育児との両立のため自宅近くで仕事を「作る」
3. 参加したコンペで起業支援金を獲得

コンペで起業支援金を獲得！やりたかった仕事を実現

日本語教師だった小野さんは多くの留学生から「日本が好きだから、卒業後は日本で働きたい」という相談を受けました。彼らが就職できずに母国に帰るのは日本の社会にとって損失になると考え、留学生のための職業紹介を仕事にしたいと思うようになります。

その頃小野さんは、自宅に近い場所で働くことで、子どもがいてもフルタイムで育児と仕事を両立したいとも考えており、市報こだいで見つけた「*コミュニティビジネス起業講座」を受講しました。そして、講座運営者から勧められて参加した内閣府地域社会雇用創造事業のコンペティションで優秀賞を獲得。提供された起業支援金でASIA Linkを立ち上げました。

海外へビジネス展開する企業へ留学生を紹介したり、経営者と留学生の合同面談会実施など、留学生の側に立った丁寧な就職支援を続け、2016年に株式会社になります。

週2回は家事ヘルパーを頼み、週3回は実家の母と夫も長男も小野さんをサポートします。外国人労働者受け入れ社会への大きな動きの中で小野さんは「留学生にもっと活躍してもらいたい、安心して働くことができるように支援したい」という起業時と同じ想いで、仕事を続けていきたいと思います。

〈夫との共同作業による起業〉

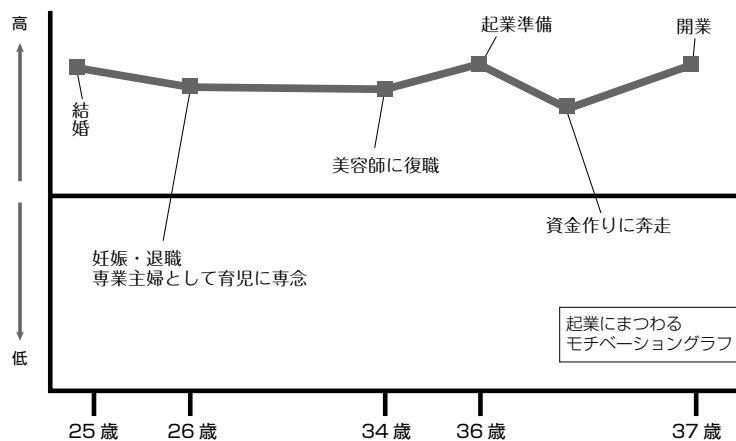


Photo Studio Moopee

すずき ゆみこ
鈴木 由美子
さん



起業までの3大トピック

1. また働きたい！という思い
2. 子どもと一緒に時間を増やしたい
3. 夫の夢が私の夢に

夫と夢を叶えるため

「私には夢とか、なかったのです。でも夫の夢が私の夢になって、一緒にフォトスタジオを開業することになりました。」

誰もが、独自の夢や目標を持っているわけはありません。それでも、結婚し家族を持つことで、夫や子どもたちの夢を叶えることが自分の夢になることもあります。鈴木さん夫妻のフォトスタジオでは、美容師の鈴木さんはスタイリストとして働いています。3人の子どもを育てる鈴木さんは専業主婦になって8年経ったところで「働きたい！」という強い気持ちで美容師として復職しますが、その後カメラマンの夫の夢のために開業することになりました。

開業するにあたり、乗り越えなくてはならなかったのが、資金面。「美容院の開業には銀行の融資は比較的簡単に受けられるのですが、フォトスタジオの融資は難しかった。」と、鈴木さん。それでも夫妻の決心は固く、無事にお店をオープン、今は忙しい日々を送ります。美容師やカメラマンは、土曜、日曜に休みのとりにくい仕事のため、鈴木さん夫婦にとって独立開業して良かったことは、時間管理が自由にできることでした。今では子どもたちの学校行事にも行けるようになり、子どもと一緒に時間が増えたといえます。店には、家族と一緒に夢を育て、実現する、鈴木さん夫婦の温かい空気を感ずきました。



小平市で起業した

〈夢と情熱、家族のサポートによる起業〉

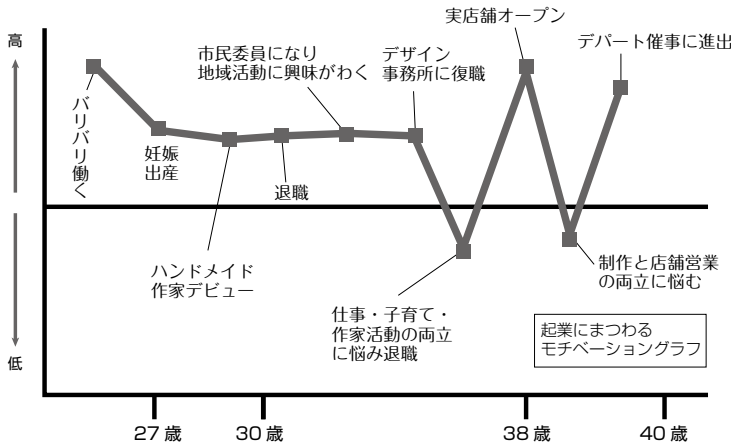
暮らしを彩る雑貨と手仕事の店
KimamayaT&K

ひぐちともこ
樋口 智子
さん



起業までの3大トピック

1. 母親から「ままごとキット」をもらったことでハンドメイドに夢中になる
2. イベントに出店、反響に手ごたえを感じる
3. 次女の小学校入学



家族のサポートと情熱でスピード起業

ハンドメイド品を中心に販売する雑貨店を始めた樋口さんは、幼少時代から親子で様々なハンドメイドに親しみ、社会人になってからは産休をきっかけに、製作販売に目覚め、会社員のかたわら、土日に手作りマーケットに出店・販売をしていました。

忙しい樋口さんですが、小平市の都市計画マスタープラン見直し検討委員会の市民委員になり、委員だった3年間で、街の活性化には近所に雑貨店が必要であることに気がつきました。

仕事と子育て、作家活動の両立に苦労していたこともあり、会社を退職、4日後には店舗契約、すぐに店をオープンします。スピード感ある起業ですが、樋口さんのハンドメイドに対する情熱を知っていた家族や親しい人々は、いつかは起業するだろうと思っていたので、反対する人は誰もいませんでした。それどころか、母は店の営業に協力し、夫、父や祖母も子育てをサポート、全面的に樋口さんを支えています。

樋口さんが起業して良かったと思うことは、自分の店を持ち、一つの夢を叶えたことを家族も共に喜んでくれたこと、店が人々の集まるコミュニティケーションの場になったことだそうです。楽しみに来店してくれる人のためにも良い作品を作っていきたいと話す樋口さんの情熱はこれからも続きます。

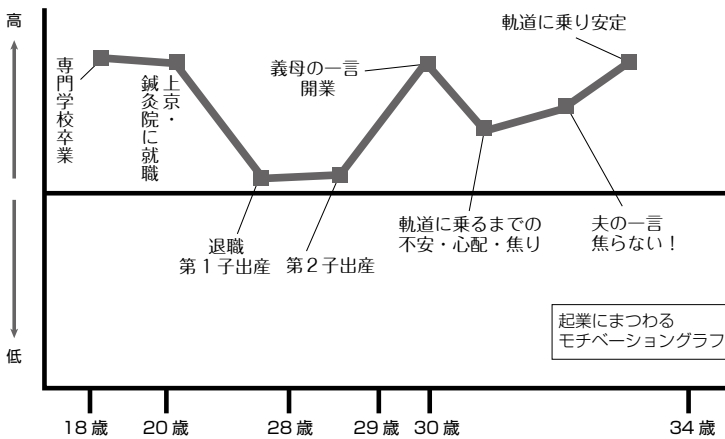
〈技術と資格を活かした起業〉

しんきゅう
しらき ちぐさ
白木 千草
さん



起業までの3大トピック

1. 人を元気にする仕事として鍼灸師を選んだ
2. 開業したいという強い思い
3. 家族からのバックアップ



家族の後押しで夢を実現

自宅で鍼灸治療院を開業した白木さんは、幼少の頃、持病のある母を見ていて、人を元気にする仕事をしたいと考えていました。高校生の頃にひどい腰痛を鍼で治してもらった経験や、将来独立できる仕事をしたかったこと、手に職をつけなさいという母からのアドバイスなどで、鍼灸師への道を選びました。専門学校を卒業、整骨院に就職して経験を積み、妊娠を機に退職した後、自宅で限られた患者さんだけを診ていました。妊娠はとても嬉しかったけれど、勉強し、努力して積み上げてきたものがなくなってしまうのではないかと、将来に焦りと不安を感じ、とても辛い時期だったそうです。

職場復帰は、長時間勤務を考えると難しく思え、近くに住む義母に相談すると「鍼灸師の資格があるのにもったいない。開業するなら手伝うわよ。」という言葉に後押しされ、夢だった開業へ踏み出しました。

知り合いの母親たちが、生理や妊娠、産前産後の体調不良を我慢していることを知って保育付きの治療院を開業してから3年。夫や家族の応援もあり、仕事も軌道に乗り充実した日々を送っています。来院する患者さんが元気になっていくのが何より嬉しいという白木さん。自宅から独立した場所で開業するのが次の目標だそうです。

行って
みました

「min'na de part」 みんなデパ

に、飲食店や子どもが楽しめるゲームコーナー、手作りが体験できるワークショップの他、音楽演奏なども催されて、2回目の来場者は4500人を超えました。

今回は2018年12月にガスマユ

「min'na de part」通称『みんなデパ』では、デパートのように楽しい素敵が集う場所をコンセプトに小平市を中心とした近郊でハンドメイドの作品作りを頑張る母親や作家さんたちが出店できるイベントを企画・開催しています。女性活躍の場を提供するという企画である『みんなデパ』は、小平市や近隣市の後援を受けて行われています。

親子でも楽しめるようにと企画された『みんなデパ』。2017年11月と2018年5月の2回、小平市東部公園で実施され、ハンドメイドの雑貨の販売をメイン



「地域を盛り上げたいんです！」と話す主催者の2人。代表と副代表は子育て中の母親です。デパートのない小平市に2人が中心となって作りあげるみんなのデパートは、女性による気遣いが行き届いた、賑やかで、あたたかな空気が感じられました。



『みんなデパ』を通して、希望のある地域の未来が垣間見えました。小平市を盛り上げてくれる『みんなデパ』の活動に励む頼もしい皆さんにエールを送りたいと思います。

みんなデパ事務局
<https://minnadepart.localinfo.jp/>
<https://www.facebook.com/minnadepart/>

『ひらく』の書棚

小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。本は借りることができます。



『男女平等はどこまで進んだか
ー女性差別撤廃条約から考える』

山下泰子・矢澤澄子 監修
国際女性の地位協会 編

〈岩波ジュニア新書〉900円＋税



国際女性の地位協会編集による本書の出版は、創立30周年記念の企画として実現したものです。1985年、日本で女性差別撤廃条約が発効されましたが、現在も女性への偏見、差別は行われています。本書はまえがきにもある通り、「女性差別撤廃条約を基に男女平等について幅広く考え、いままも根強いさまざまな差別をなくするためのヒントを提案」しています。コラムでは、人権やジェンダーに加えデートDV、JKお散歩などの話題でジュニア世代に語りかけています。巻末を見ると、条約の対訳や解説・参考図書・資料・関連情報のインターネット検索方法も掲載されており、充実した内容になっています。

(ゆ)

『キッチンで読むビジネスのはなし 11人の社長に聞いた仕事とお金のこと』

一田憲子 著

〈株式会社KADOKAWA〉
1,600円＋税



編集者としてライターで、主婦でもある著者が苦手なことは「ビジネスやお金儲けに対する知識をもつこと」。好きなことを仕事にして生きていくためにも必要なお金。そこで、お金を稼ぐためにはどんなビジネススキルが必要か、11人の社長にインタビューしています。彼らの考え方や行動を著者の暮らしに落とし込み、取り入れる試みをしています。成功者に共通するのが「相手が望んでいることを知る」「相手のことをとことん考える」こと。ビジネスは一人勝ちすることではないそうです。お金を稼ぐ仕組みを知らないあなたが人生を豊かに変えるにはどうしたらいいのか。お金やビジネスに対する素朴な疑問のヒントが見つかりそうな本です。

(S)

ひらくの言葉 「ハラスメント」

ニュースなどでよく聞く「パワハラ」「セクハラ」という言葉は、「パワーハラスメント」「セクシュアルハラスメント」の略語です。「ハラスメント」は広辞苑によると、人を悩ませること、優越した地位や立場を利用した嫌がらせとあります。

40以上もあるといわれているハラスメントの形態ですが、一般的に被害にあいやすいのが、地位や経験、年齢などの優位性を背景に行われる「パワハラ」、性的な言動や行動をする「セクハラ」、妊娠や出産をした女性、育児休暇を取った人に行われる「マタハラ」、陰口や無視といった言葉や行動で人を精神的に傷つける「モラハラ」です。

こういった形態に限らず、他者に対する発言や行動、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えることをすれば、それはすべてハラスメントになります。

ハラスメント被害がなかなか減らない原因の一つに、日本にはハラスメントに有効な法規制がないことが考えられます。

ハラスメントについては、男女雇用機会均等法や育児・介護休業法において、妊娠・出産・育児休業等を理由とする「ハラスメント」の防止措置

が事業主に義務付けられていますが、パワハラ等については対策規定がありません。

日本も加盟するILO（国際労働機関）が実施した80か国調査（2018年）では、「職場の暴力やハラスメント」について規制を行っている国は60か国ありました。日本は規制がない国とされましたが、昨年、企業に防止措置を義務づける新法案制定の審議がなされました。ハラスメントを法律で規制するのが国際的な潮流ですが、日本は損害賠償請求の根拠となる禁止事項は見送るなど法規制に慎重な立場で、取組は諸外国に後れを取っています。

このような状況の中、民間でハラスメントの相談を受ける団体が増えています。被害者、あるいは声をあげられないで苦しむ人を身近に見かけたら、ネットなどで情報を収集し、サポート団体や専門家に相談することをおすすめします。



「表紙の作品について」



広報誌『ひらく』の表紙写真はプロのカメラマンにお願いしてきましたが、今号は実行委員がデザインした4種類のデザインの中から「元氣村まつり」（昨年10月開催）で来場者に投票してもらい決めました。最近新型車両がふえています。写真中央にある西武国分寺線の黄色い電車が木々の間を走る風景が「小平らしい」という意見が多くありました。今号のテーマは「女性の起業」。カラージュされた写真のモデルは、起業を考える、または起業した小平市在住の女性たちです。

この黄色い電車に揺られながら「起業しよう」と考えている女性たちが何人もいることでしょうか。さて表紙の桜の蕾も膨らんできました。小さなことでも前向きな世の中の変化に気づくのは楽しいことですね。

編集後記

取材を通して、働き方、生き方は時代背景により変化していると感じました。この小平市で、自分らしく生きる事に向き合い、実践している方々を見て、読者の皆さんが「自分にできる事」を考えるきっかけになれば嬉しく思います。

● 実行委員の中でも世代が違つていて起業の定義、イメージに相違があることが印象的でした。起業が自分らしい人生を歩む1つの選択肢になつた今、身近なロールモデルのお話からそれぞれの起業のイメージを作っていただければなと思

ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(19館)、大学(6か所)、福祉会館、市民総合体育館、児童館(3館)、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局(17か所)、市内各駅(7か所)、ふれあい下水道館

- 小川町 手作ロクッキーの店歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院、楠
- 小川西町 佐野商店、たましん小平支店、NMC ギャラリー、小川ホーム
- 小川東町 ギャラリー青らんぎ 上水本町 アトリエ・パンセ
- 学園西町 ビューティーサロンサンローズ、梁里館、美容室ヘアグラッシュ、本間歯科、ヘアサロンサンライズ、あかね薬局、床屋のけんちゃん、笹間住宅資材、たましん一橋学園支店、学園接骨院、国際交流協会、しらか鍼灸治療院
- 学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、きらぼし銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je、どりあん、一橋鍼灸接骨院、お化粧のしのぞき、ミサワリフォーム株式会社
- 美園町 多摩済生病院、カフェラクラス、珈琲の香、POEM(ぼえむ)、永田珈琲、ルネこだいら、小平駅前クリニック、シャンブル、子育てサポートきらら
- 仲町 小平消防署 大沼町 ガスミュージアム
- 花小金井 公立昭和病院、さがみや寝具店、Cafe & Deli hug

小平在住・在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき

レディ 42



日本折紙協会の認定折紙講師の木島さんは、イベントやサークルなどで折紙の普及をしています。「折り図を見ながら子ども達と一緒に折紙を作った時、とても喜んでくれるその笑顔が嬉しくて、色々挑戦していくようになりまして。」と話す木島さんの折紙に対する情熱は、日本折紙協会認定折紙講師の資格を取得するまでになりました。その後、折紙や押し花等に樹脂でコーティング加工して作るレジンアクセサリー、リボンレイ、フラワーアレンジメントなどのハンドメイドのワークショップや販売など、木島さんの活動分野はどんどん広がっていきます。

子どもの喜ぶ顔が見たくて始めた折紙が チャレンジの第一歩

木島 弘美 (きじま ひろみ) さん

誰かのために役に立つことがしたい!

地域活動にも積極的に関わりたいと、小川西町公民館の子育て中の母親の料理サークル『ミッソーナ』の代表も務めています。また、人の役に立つことをしたいと、弁護士事務所で働いていた経験を活かし、昨年秋から司法書士事務所で司法書士補助者として働き始めました。現在8歳、6歳、1歳とやんちゃ盛りの男児を育てる母親でもあります。物腰の柔らかい印象の木島さんは、最も忙しい子育て期にフルタイムで仕事をしながら週末はハンドメイドのワークショップを開き、地域サークルの代表も務めるチャレンジ精神旺盛な女性なのです。どんなに忙しくても、ワークショップに参加する子ども達の笑顔と「ありがとう!」の一言で、疲れは吹き飛ばさそうです。

家族の応援を力に挑戦する姿を 子どもに見せたい!

専業主婦だった木島さんが一人何役もこなす女性に変身したきっかけは、父親との同居でした。父親にも家事や

育児の一端を担ってもらうことで、外での活動時間を確保できました。また、優しい夫の協力も大きかったようです。家族がそれぞれの役割を持ち、木島家の暮らしは充実しています。

いつも夢に向かって挑戦する姿を子どもたちに見せ続けたいという木島さん、将来的には司法書士の資格にも挑戦しようと考えているそうです。

とにかく、行動する! そうすれば可能になることもあるのだ、と木島さんの生きる姿勢から学ぶことができました。



第22回 ひとひと 女と男のフォーラム

16時退社を実践した社長が語る “100人100通りの働き方”

講師 あおの よしひさ
青野 慶久 さん
(サイボウズ株式会社代表取締役社長)

3度の育児休暇を取得したイクメンであり、自ら16時退社を実践した社長、青野慶久さんによる講演会を、2月3日(日)午後1時半から、中央公民館2階のホールで開催しました。

青野さんは、社員に同じ働き方を強いるのではなく、副業の奨励や在宅勤務など、ひとりひとり好みの働き方ができるようにしています。その結果、大きな成果を上げる社員が続出し、離職する社員も激減して会社は大成長したのです。

そんな青野さんの講演に感動した市民が次々と質問をぶつけたところ、講演会終了後も答え続けられました。青野さんのような社長が増えると日本の未来も明るいと感じました。



ひらく

第44号
平成31(2019)年
3月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

浅野 里美	岸 和夫	中丸友里恵
安食世津子	北川 紘二	野崎 裕子
阿部 直子	高橋 雅子	吉村 順介
岡 武左	谷原 裕子	

小平市男女共同参画センター「ひらく」

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1

小平元気村おがわ東 2階

042-348-2112 (電話受付時間
午前9時30分~午後5時)

西武拝島線・西武多摩湖線 萩山駅南口より徒歩5分

※駐車場に限りがありますので、車での来館はご遠慮ください

- 開館時間 午前9時~午後10時
- 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
- 利用対象者 どなたでも(利用登録団体は予約可)
- 問合せ先 地域振興部市民協働・男女参画推進課
042-346-9618

